第135号

教室の窓から・私の研究

学校自慢

支部トピックス(新城・豊田支部)

副会長挨拶

三教研に望むこと

授業力養成講座・教育講演会 調査委員会報告 研究大会の報告

教 育



三河教育研究会



当たり前」を丁寧に見直す

三河教育研究会 副会長 鈴木 佳樹

ていくことしかありません。できることは、安心・安全に過ごせるよう、子どもたちとともに丁寧に日常をつくっできることは、安心・安全に過ごせるよう、子どもたちとともに丁寧に日常をつくっされました。新型コロナウイルス感染症の終わりが見えないなか、わたしたちに年明け早々、オミクロン株の感染急拡大に伴い、ワクチン接種の間隔が前倒し

接種は一・五倍の速さで完了。逆転の発想が時間短縮につながりました。一方、山梨県南部町では、被接種者を固定し、医師が接種に回っていました。すると、各ブース「予診」「接種」「副反応観察」それぞれに被接種者が列をなしていました。種の方法が話題となりました。そのころニュースでよく見聞きした接種会場では、さて、ワクチンの集団接種が始まったころのことです。山梨県南部町の集団接

子どもたちの時間は無意味なものとなってしまいます。 この方法は、意欲喚起が期待できる一方で、列が長くなればなるほど、列で待つこの方法は、意欲喚起が期待できる一方で、列が長くなればなるほど、列で待つわたしも中学校で数学を教えていたときによく用いました。よかれと思っていたから……」と、子どもたちの競争心を利用して意欲を引き出そうとする方法は、教師が「できた子から持ってきましょう」と指示を出したのでしょう。「できた子ドリルやノートを手に列をなしている場面に出くわすことがあります。出題後、ドリルやノートを手に列をなしている場面に出くわすことがあります。出題後、

可能となります。 的が明確であれば、出前方式の方が子どもたちの状況を短時間で把握することが的が明確であれば、出前方式の方が子どもたちの状況を短時間で把握することがへの対応に多くの時間を要し、効果はあまり期待できません。しかし、教師の目題数が多かったり、確認したいことが多岐にわたったりしていると、子ども一人題数が多かったり、確認したいことが多岐にわたったりしていると、子ども一人の方式」を「出前方式」に切り替えるとどうでしょう。○をつける問

つくる必要も、教師が子どもたちの所を順に回る必要もありません。自律的に学び進めていくことができます。目的によっては、子どもたちが行列を自席で互いの考えをリアルタイムで知り、学びの主体として最適な学びを判断し、人の進捗状況や考えを一括して把握することが容易になりました。子どもたちはのスタンダードとなりました。端末の効果的な活用により、教師は子ども一人一コロナ禍で「GIGAスクール構想」が加速し、一人一台端末がすっかり学校コロナ禍で「GIGAスクール構想」が加速し、一人一台端末がすっかり学校

と社会科指導資料集』の原稿に挑みまし

と声かけがあり、『三河に学ぶ・ふるさ

北設の風土について書いてみんかん?」中学校に転じた教師に、別の先輩から

ます。中世からの伝統的祭礼に、町に移

た教師は、ある地区で劇的「発見」をし礼が主題であり、町内各地に取材に赴いた。小・中学校と連続して勤める町の祭

と、すでに若くない教師は強く願って

評価してくれる存在であり続けてほしい

ていくことが、今、わたしたちに求められています。 子どもを教育活動のど真ん中におき、これまでの「当たり前」を丁寧に見直し

二教研に望むこと



きっかけ ここにあり三河「発見」

夏月日十貴司 設楽町立田口小学校

づくりに挑戦! 奥三河の片隅で、旧家 それらを一覧化した発見ボードでの授業 どもの発見」に期待して、発見カードと ドだった当時、若き教師は発奮し、「子 び」に練り上げられ、「発見」が新キーワー 発言に迷いの多かった若き教師に、協議 勧められ郡社会科部会の授業研究会に参 に、まさに道を照らされた思いでした。 三教研の「子どもを中心に据えた教育」 戦国の人の生きざまを読み解きました。 の「古いもの」から、子どもとともに、 後、先輩がくれたのはこの言葉でした。 加したのは、新元号・平成の初頭でした。 「三教研テーマでいっぺんやってみん」 社会科テーマが、学ぶ「楽しさ」から「喜 小学校に勤務する若き教師が、先輩に

> 頃です。 頃です。 頃です。

思いは、以後、学校の内にあっても外の 境が脈々と在ることは尊いと思います。 進める時代です。実践構想に、取材に、 が自覚と自律をもって「働き方改革」を 三教研が現場教師に刺激を与える最前線 地域との関わりにあっても不変でした。 自己研鑽の機会を与え、伸長を見守り、 大いなる「よき先輩」です。今後とも、 う組織そのものが、三河教師にとっての 自分を高める「きっかけ」を見出せる環 執筆に、「時を忘れた没頭」は難しくとも、 = 教科には、「発見の種」がありました。 若き教師が得て高めた気概、感化された でしたが、三教研が「きっかけ」でこの 三河の風土を背景とした、三教研とい 学校体制としてだけでなく、一人一人 一教科を通した、取るに足らない昔話

子どもを捉えて

岡崎市立矢作北中学校

くのことを学ばせていただきました。そ めてきました。私自身も夏季研修会で多 輩方から脈々と受け継がれた技を大切に 自己実現に向けて力を蓄えてきました。 保護したい」と、将来の夢を語ってくれ ら学校生活を送る中三生徒と話しまし に悪戦苦闘したことが思い出されます。 もを育て鍛えよう」と、教材研究や授業 の学びを活かし「授業で一人一人の子ど う中で人間関係を学び、社会性を高め がら、同級生や教員らと様々な活動を行 ました。その生徒は適応教室で過ごしな た。「AIを活用して自然界の動植物を しながら、現場の先生方は教育活動を進 六十年目を迎えました。本会の教育理念 「はじめに子どもありき」を礎に、諸先 三河教育研究会は、発足から今年度で 三学期早々、校内適応教室に通いなが

めて歩みたいものです。 強い思いを、そして私たちの構えを確か り残さない教育を、子どもの幸せを願う 育の原点である子どもを捉え、誰一人取 びの多様化が求められています。三河教 の子には何が必要だろう。そのためにど あくまで子どもたち個々の成長です。こ 適な学びが求められています。目的は、 んな教材や授業が役に立つのだろう。学 の整備によって、学習の効率化と個別最 昨年から一気に加速したICT環境

授業づくりの礎に

みよし市立南中学校 史

意見に感心しました。 科の授業でのやり取りの一部です。生徒 う」「江戸時代は、今の時代よりも庶民 時代でも庶民の意見を聞くことは大切な 保の改革について調べた後、改革の中で たちは、江戸時代に徳川吉宗が行った享 い」これは、先日、特別支援学級の社会 の意見を聞いてくれているかもしれな ので、目安箱の設置が一番の政策だと思 ものがあるから目安箱はすごい」「江戸 した。現代と比較しながら、よく考えた 一番優れている政策について話し合いま 「今の時代でも意見箱とか同じような

とっての授業づくりの礎です。 マにもとづいた授業実践から学んだ私に 三教研、それをもとにした市教研のテー てきました。このことは、新任時代から 会にどう生かすかという視点を大切にし 違点を見出し、過去から何を学び現代社 け現在の暮らしと結び付け、共通点や相 これまで、歴史の授業では、できるだ

積み重ねていきたいです。 業づくりの大切さは変わりません。今後 を期待するとともに、自分自身も実践を も我々の授業づくりの礎となる取り組み で、子どもたちが深い学びを追究する授 めに子どもありき」の教育理念のもと 世の中がどんなに変化しても、「はじ



北っ子の森は 宝でいっぱい

谷市立富士松北小学校

トルもある大木です。 あります。樹齢約八〇年、およそ十五メー 中に学校のシンボル「アベマキ」の木も おり」「フルーツガーデン」と名前がつ どおり」「ぎんなんどおり」「さざんかど 豊かな学校です。校内には、「くすの木 いている場所があります。運動場の真ん 本校は、刈谷市の北部に位置し、自然

見つけることができます。 来ることです。加えて、昆虫もたくさん 実や花の蜜があるため、野鳥がたくさん や耐寒かけ足のコースだったそうです。 す。当時は、このコースがマラソン大会 駆け抜けるコースを作ったのが始まりで あります。まずは、鳥たちの好きな木の 帯の松林・雑木林などを整備し、山林を の当時のPTAの方、教職員で岩ケ池 す。昭和四十四年に体力増進のため、そ 北っ子の森には、素敵な宝がたくさん 学校の東側に「北っ子の森」がありま

炭づくり」などがあります。 察会」「竹切りの会」、五年生が行う「竹 つです。その中にPTA主催の「野鳥観 北っ子の森を使って行う体験も宝の一

校内にある炭焼き釜で竹炭をつくる体験 「竹炭づくり」は、本校の五年生が

> 窯につめて、火をつけます。 均一な大きさに切りそろえます。そして、 くしながら運び出し、のこぎりを使って 今年度、北っ子の森から切り出した竹を です。昨年度焼いた竹炭を、手や顔を黒

する活動を考えています。 とめとして、一年生を北っ子の森へ案内 森の環境整備を行っています。学習のま 板やごみ箱の設置などを考え、北っ子の て、「めざせ!みんなが来たくなる森」 をテーマに学習に取り組んでいます。看 六年生は、総合的な学習の時間を使っ

で多くの人がつながっています。 ています。北っ子の森を守ろうという心 企業の方、保護者、子どもたちが参加し を切る「竹切りの会」には、PTA役員 して、竹林が森林を侵害しないように竹 うとする心を後輩へつなげています。そ ながり」です。北っ子の森を守っていこ 経験者からなる「おやじの会」、地元の そして、北っ子の森の一番の宝は、「つ

とを願っています。(文責・細川 域を愛する心が育まれ、つながっていくこ に、北っ子の森を愛し、学校を愛し、 自然豊かな本校で育った子どもたち 圭子) 地



地域の方と取り組む「竹切りの会」

新城支部

未来につながるつくでの学び ~仲間・地域とつながる学びを通して~

新城市立作手中学校

らICTの活用についても研究を進めて 新城市ICT教育モデル校の指定も受 びを通して~」です。また、昨年度より きました。研究主題は「未来につながる います。 つくでの学び~仲間・地域とつながる学 令和三年十月二十六日に研究発表会を開 、き地教育研究協議会から委嘱を受け 本校は令和元年度より三年間、 研究主題についての研究を進めなが 愛知県

まで当たり前にできていたことができな が拡大し、臨時休校を余儀なくされ、今 くなるという事態となりました。しかし、 「ピンチはチャンス」。コロナ禍というピ 一昨年から新型コロナウイルスの感染



描いた絵をもとにした話し合い

の活用がクローズアップされ、 ブレット端末の配付が前倒しというチャ IGAスクール構想が大きく前進し、タ ンチに直面したことにより、一躍ICT ンスが訪れました。 同時にG

となるべき「こども園・小学校・高校と 研究を進めたのが「仲間とのつながり」 た。そこで、本校が特に力を入れて実践 がり」にかかわる実践が難しくなりまし のつながり」や「社会(地域)とのつな 本校の研究においても、本来中心の柱

を共有しました。言葉だけでな で学習課題を焦点化していきま 通点や相違点を見つけ、その中 ら、自分と仲間の読み取りの共 く、映像化された仲間の考えか 描き、ICTを使ってその画像 取った情景をペイントアプリで では、若山牧水の短歌から読み 二年生の国語科の短歌の学習

きたいと思います。 い授業スタイルをこれからも模索してい に挑戦し、学びを深めていくという新し ICTを活用して仲間とつながったこと した。」この授業の生徒の振り返りから、 いろいろな解釈ができることがわかりま 絵に表すことで捉え方の違いに気付き、 このように、新たな視点を加えた授業 「同じ言葉に着目していても 学びが深まったことがわかります。

(文責・浅井 睦弘

豊田支部

組織的・計画的なOJTの推 今日的課題の解決を目指す取組 進

豊田市立朝日丘中学校

目

共施設が多く存在し、文教福祉地区とし ります。また近くには、市役所などの公 民の文化振興を図るための大型施設があ の前に、市民文化会館や美術館など、市 豊田市の中心部に位置する本校は、

わり、気持ちも新たにス は、今年度新校舎に建て替 徒数八百名を超える本校 きたところにあります。生 ての街づくりが進められて タートを切りました。

成は喫緊の課題です。そこ に付けるべき資質能力の育 百対応など、教員として身 教科指導や生徒指導、保護 近年、若手教員が増え、

験の場となるようにする。 学び、指導に見通しと自信をもてるよう 有し、今後に活かせるようにする④中堅 話し合うことにより、考え方や体験を共 経験の浅い教員が、ベテランの教員から 計画を立てました。①協働して課題解決 教員が講師を担当し、講師側も学びと体 にする③教員同士が一つの課題について 四つに定め、 に向かうための力量向上の機会とする② 組織的に推進が図れるよう で、本校はOJTの目標を 進めるうえで

> ることができました。 どを教職員全体に、効率よく運用を広め 活用法、オンライン朝の会や健康観察な Teamsやスカイメニューの授業への ついても、組織的なOJTを行うことで、 躍的に進んだ学習用タブレットの導入に るようにしました。コロナ休校により飛 具体的な手立てについて学ぶことができ を紹介し、ワークショップを行うことで、 を用いて、これまでの経験を基に、事例 は、講師がプレゼンテーションソフト等

めていきます。 組織的かつ計画的なOJTを実施し、 とで、相互に高め合うことのできるよう、 これからも、本校教育目標の実現に向 若手教員の資質・能力の向上を目 中堅教員も情報発信力を高めるこ (文責・杉山 進



メディアセンタ (図書館+CP室) 活用法 OJTの様子

安城市立東山中学校 田 郎

す。そこで、「その分からなさを伝え合っ 詩です。この詩と出会った生徒に聞いて りん)は一読するだけでは分かりにくい てみよう」と促しました。 みると、やはりよく分からないと言いま 「挨拶 ― 原爆の写真によせて」(石垣

とは」と尋ねました。 ある程度、作品への理解が進んだと思わ だん熱を帯び、大きくなっていきます の生徒の目は輝いており、話す声はだん かせてくれる生徒もいます。そんなとき と作品と向き合ったり……。詩を掲示し すい仲間同士で相談したり、一人で黙々 れるところで、「みんなに聞いてみたいこ た黒板の前に来て、私に自分の考えを聞 読解の得意な級友に尋ねたり、 話しや

時でも、この問題等について熱心に聞き 考えたいと思っていた対比や主題に関連 は」「なぜ題が『挨拶』なの」等、生徒と 合う姿がありました。 した問題が生まれてきました。そして次 、やすらかに 美しく 油断していた』と 「『いま在る/あなたの如く 私の如く

> と教室が活気付くのです。それは学習が らだと思います。 自分事となり、 感や分かりたい思いに改めて耳を傾ける たように思います。しかし、生徒の困り ると、教えたいという思いが強すぎてい これまでの自分の授業を思い返してみ 学ぶ必然性が生まれるか

掛けに悩んだりします。それでも、その 非認知能力を伸ばすことに挑戦していま 充実した気持ちになります。 子らしく一生懸命に学ぶ姿に、うれしく、 ず出すぎたり、非認知能力を引き出す仕 努めます。まだまだ我慢や見通しが足り いかけ、生徒が学びの主体となるように でなく、「どう思う」「どうしたい」と問 意識しますが、教師が教えて満足するの 境を整えるのです。もちろん指導事項は 軸から授業を構想し、 く生きることを願い、教科指導を通して を生徒が他者と共にしなやかにたくまし 今、東山中学校では、予測困難な時代 「探究的な学び」と「自己決定」の二 生徒が自ら学ぶ環



分からなさの解決や知りたい思いの 充足に向けて動き出す生徒

私の研究

自ら問いをもち、社会的事象を多面的

多角的に考察して 、学びを深める生徒の育成 中二地理「日本を支える愛知の力~農業編~ 」の実践を通して

蒲郡市立中部中学校

はじめに

多角的に考察して、学びを深める生徒を 育成するために、本実践を行いました。 自ら問いをもち、社会的事象を多面的

うして多くない耕地面積で農作物がたく こから社会的事象を比較・関連させて「ど 自己の学びを深めていきました。またそ た新たな事実や見方・考え方に気づき、 わる中で、自分一人では調べきれなかっ

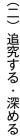
さん作れるのだろう」など自ら新たな問

再度、追究し始めた生徒たちは、

見通しを自らもつ (一) 問いや追究の

を提示しました。意 都道府県ランキング 国農業産出額上位の 盛ん」と思い込んで いる生徒たちに、全 愛知県は「工業が

ちは「どうして愛知県の農業はこんなに 外にも「農業も盛んだ」と驚いた生徒た た。その後「どんなことを調べればよい 盛んなんだろう」と自ら問いをもちまし 通しをもって追究へと動き始めました。 容をグループで話し合い、 視点が出ました。その後、 は「気候」「農作物」など、追究の様々な のか」を話し合いました。生徒たちから 調べていく内 生徒たちは見



示したことで、

追究し始めました。その後、 位の農作物が多い」など、様々な視点で 暖な気候」「全国産出額ランキングの上 追究の見通しをもった生徒たちは「温 仲間とかか



暖な気候を生かして出荷時期をずらす施 追究した様々な視点の事実を根拠に「温 いをもったのです。

学びへと至った に考察する深い 多面的・多角的 て社会的事象を ました。こうし 者の思いにまで追究を深めることができ さらに「安心で買いたくなる」など消費 物を作っている」など農家の努力や工夫、 設園芸農業をしている」「品質の良い作



自ら問いを追究する生徒

生徒たちを深い学びにいざなう実践を もって社会的事象を多面的・多角的に考 生徒たちの既成概念を覆す資料を提 追究や学びを深めました。今後も 生徒たちは自ら問いを

のです。

おわりに

重ねたいです。

研究大会の報告

ふるさとに夢や誇りをもって、 未来の創り手となる子どもの育成

第五十九回

愛知県へき地・複式・小規模学校

教育研究大会

所 設楽町立名倉小学校 新城市立作手中学校

場 期

日

十月二十六日(火)

参加者 名倉小学校 作手中学校 百十三名 五十六名

公開授業 名倉小学校 六学級

作手中学校 三学級

◎名倉小学校研究主題

自ら地域とかかわり、学びをつなげ ふるさと学習と教科・総合的な 学習の時間を関連付けて一 思いを深める子ども

◎作手中学校研究主題

未来につながるつくでの学び 〜仲間・地域とつながる学びを通して〜

設楽・津具小

西

手中学校の二会場で行いました。名倉小 共催で行われました。 学校は、北設楽地方教育事務協議会との 本年度の研究大会は、名倉小学校と作

こと」に出会わせ、 名倉小学校では、地域の「ひと・もの 課題を見つけ追究す

> 課題解決したことを振り返り、 とができる子どもを育てていました。そ に返す活動を行ってきました。 のために、地域に出かけ、人と出会い、 に愛着をもち、ふるさとを大切にするこ ることで、名倉の「ひと・もの・こと」 再び地域

園・小・中・高のつながり、地域社会と 目指していました。ICTを活用し、 とを支えに自らの人生を切り拓く生徒を のつながりを大切にすることで、ふるさ 作手中学校では、仲間とのつながり、 教

授業を工夫し あげていまし 活動に成果を 会とつながる もとに地域社 を深める力を で培った学び そして、授業 てきました。 間とつながる 材・自己・仲



る内容でした。

名倉小:グル

地域とかかわることの大切さ

ことの大切さを感じました。 いました。実際に地域に出て実感させる べての学級の授業を見ることができま が一体化していて、廊下を歩くだけです たちで調べたことを生き生きと話して した。どの学級も地域とかかわり、自分 名倉小学校は、廊下とコモンスペース

> 令和三年・ 四年度 実践事例 集

新し 主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践 い時代に求められる教育 II(調査委員会

そのうえで、次のような育てたい子ども あり方について、研究を継続させていく 的で深い学び」を生み出すための授業の ていくことが必要なのかを考えさせられ の世の中、子どもたちにどんな力をつけ の姿も寄せられました。先が見えないこ べきだという声が多く寄せられました。 めることができなかった「主体的・対話 の二年間。各支部からは、思うように進 に制限のある中で授業を展開してきたこ コロナ禍により、かかわり合いの活動

育てたい子どもの姿

①見通しをもち粘り強く学習に向か うことができる子

②子ども同士の協働、教職員や地域 の人との対話、先哲の考えを手が 深めることができる子 かりにして、自分の考えを広げ、

④持続可能な社会を実現させる担い ③学習内容を人生や社会のあり方と ⑤社会とのかかわりを大切にする子 手となり、 結びつけて深く理解できる子 未来を創造できる子

> びの実現を図る授業実践~」という令和 還元していきたいと考えています。 果と課題を事例集にまとめ、学校現場へ 元年・二年度の主題を継続し、実践の成 れる教育Ⅱ 〜主体的・対話的で深い学 からの二年間は、「新しい時代に求めら 研究を進めたりしています。令和三年度 題を設定し、二年間のサイクルで調査・ 組んだり、諸活動の充実を図るために主 調査委員会では、諸事業の推進に取

と結びつけていくことができるようにし 理念は、目の前の子どもや、地域の実態 とご協力をよろしくお願いいたします。 きます。会員の皆様、今後とも、ご理解 五年二月の発行に向け、調査を進めてい の実践を掲載していきます。そして令和 ていきます。そのために、各地区の渾身 たち教員の資質・能力のさらなる向上へ 践を具体的な形に残すことによって、私 いています。それら各支部の価値ある実 を大切にしたそれぞれの実践の中に息づ 学びを創造する」といった私たちの共通 育を実践する」「子どもの生活を変える 風土に根ざし、子どもを中心に据えた教 きます。どの支部においても、「三河の 小学校・中学校の実践事例を掲載してい 本事例集には、三河の各支部における、

授業力養成講座

□ 講会期 夏期講座 【東三河 В

師場 新城文化会館 八月二十五日 校長 小島 寛史 出岡崎市立岩津小学校 豊橋市立南陽中学校 校長 山田 昌弘 先生 先生

◎ 秋 授会期期 業 者場日座 新城市立千郷小学校十月十五日(金)

温之 先生

◎ 授会期 業 者場口 東栄町立東栄中学校 十一月十九日(金) 悠里 先生 (六年 (二 年 社会科)

◎期 夏期講座

教頭 林 知子 先: 元刈谷市立衣浦小学校 西尾市立平坂中学校 刈谷市生涯学習センター 愛知教育大学 八月二十四日(火) 兼子 和裕 明 先生

十一月五日(金)

◎ 授会期 業 者場『 授会 業 者場 刈谷市立小高原小学校 刈谷市立雁が音中学校 十一月二十四日(水) 和 晃 先 生 由 佳 先 生 一年 社会科)

受期者場 高浜市立高浜小学校 十一月二十六日(金) (六年 国語科)

> 師支援のあり方をご指導いただきました。 きいきと活躍する姿がありました。また、 たが、どの会場においても、子どもがい 捉え方や授業づくりの理論、具体的な教 いました。講師の先生からは、子どもの 体的な子どもの姿をもとに熱く議論して 授業後の協議会では、受講者同士が、具 受講された先生方が、各学校および地 本年度もコロナ禍での開催となりまし

区における授業力向上の推進役となり、 層活躍されることを期待しています。

どもの願いをもとに、子どもの側 勤務校では、本年度から研究が 研究主任として提案していきたい。 から授業を考える」ことを大切に する。本日の講義にもあった、「子 みたい」と動き出す手立てを検討 まった。一年目は、子どもが「①やっ した検討会や協議会となるように、 てみたい②考えてみたい③伝えて

識していくべきだ。生徒が自ら問たが生活から「不思議」を見つけたが生活から「不思議」を見つけ発、手立てが必要だと感じた。生発、手立てが必要だと感じた。生 創りたい。 題を解決していけるような授業を 生徒が「どうしてもこの問題を解

考に寄り添い、かつ有効な教師のてしまうので、もっと子どもの思 きた。どこでどのように出るか、 教師の出方について学ぶことがで 出方を模索しないと力はつかない 授業に臨むことはあるが、どうし いくつかシミュレーションをして ても教師が求めている方へ誘導し

教育講演会

演 題 **「**] 講師 辻中 公氏(やまとしぐさ伝承学師範)~自分の使命を思い出すやまとしぐさ~ 今だからこそ、子ども達に伝えたいこと

愛知教育大学附属岡崎小学校 令和三年十月十三日 (水)

なかった教育講演会 で、五月に開催でき

新型コロ

ナの影響

議員会議に合わせて、参加人数を制限し た形で開催することができました。 でしたが、十月の評

た。 知恵である「やまとしぐさ」について、 容を紹介します。 所作を交えながら教えていただきまし 辻中公様をお招きし、古きよき日本の 講演の中から、いくつか印象的な内

●物にも出来事にも全て、必ず役割や意 り、その意味を考えたい。 く伝わっている日本のしぐさや形や文味というものがある。だからこそ、長 化、使ってきた言葉にも必ず意味があ

●成長の段階は、まずは学校や家庭など 集団に飛び込んでいく。その後、自分段階があった上で、次は自分で選んで だけ感謝できるかが大事。 うになる。与えられた集団の中でどれ も他人も認める価値観をもっていくよ 与えられた集団の中から始まる。その

古文書の中に「一心五心」という言葉 とらえると、「五心」は、感謝、思い のつながりを思い起こさせる言葉だと げさま」の気持ちをもつ。それが全て 心」が、どんなものに対しても「おか するために育むべき心が「五心」。「一 全てつながっていること。これを理解 がある。「一心」とは、心を一つにする、 責任、信頼の心になる。

> 本当の心の真意は何かと感じた上で、一 所を得ている子どもはチャレンジでき 断することができるようになる。 る。信頼されて育った子どもは優しくな れる。任されることを知った子どもは決 心五心を育む。そうすると、安心する場

も、我々の使命だと感じました。 ができ、子どもや家庭へ伝えていくこと まとしぐさ」の意味と大切さを学ぶこと 意義な時間となりました。 辻中様の講演により、日本に伝わる「や 大変有

◇参加者の声◇

とを振り返るよい機会となりまし きたいと思います。 を忘れずに子どもたちに接してい 込められた思いを伝えていくこと えるのではなく、その仕草や形に た。今後は、表面的な形だけを伝 ります。辻中様の講演は、そのこ ばならないよき知恵が日本にはあ とも必要ですが、大切にしなけれ 新しい知識や習慣を取り入れるこ ありました。時代の流れによって、 その本質を知らないことが数多く 何となく知っていたつもりでも

※会員の皆様と講演の内容を共有するため、 各校へDVDを配付させていただきまし す。ぜひご利用ください。 た。また、三教研のHPからも視聴できま

教

随

人と人との関わりの中で

想

を動かして、落ち葉で一杯 る。自分より大きなほうき

(90)

とてもほほえましく思う。

小学校の清掃は、縦割り

ないように運んでいる姿を、 になったちりとりをこぼさ

宏

きの使い方を優しく丁寧に

高学年が、ぞうきんやほう で行っている学校も多い。

教え、上手にできたらほめ



「ぞうきんは、水につけた

刈谷市教育委員会 教育長

金 原

すいことばを探し、 使おうね」 ら、ぎゅっとしぼろうね」 「ここは、ほうきを立てて 分かりやすく、伝わりや

流の場となっている。 年と低学年の自然な、そして、 工夫を伝える。毎日の清掃活動は、高学 温かな交

ている。

゙おはようございます」

明るく元気な声が、校舎に校庭に響い

おはよう

童・生徒に出会う。 自主的にボランティア活動をしている児 では、花壇の草取りや落ち葉掃きなど、 学校を訪れることができた。校門や校庭 にかけて、刈谷市内の全ての小学校、中 参加してみたら、 新緑がまぶしい五月から晩秋の十一月 なんだか楽しかった

ので」 **-ぬれた落ち葉で一年生が滑って転ばな**

と、低学年を気遣う優しさ。 いように」

ランティア活動に参加する姿も見られ たくさんの落ち葉が舞い散る十一月に 一年生も随分とたくましくなり、ボ

> の願いや希望が結集された。 通っていた。長い年月をかけ、 知多半島にある半田市まで長時間かけて なく、医療的ケアの必要な児童・生徒は、 れた。これまで、市内に特別支援学校が 成三十年四月、刈谷市小垣江町に設置さ メをモチーフとされた校章が輝いている。 る三階建ての校舎。白い壁に二羽のカモ この刈谷市立刈谷特別支援学校は、平 屋根付きの昇降口が深く長く続いてい 多くの方

を仰ぐことによって、病院からの出向看 ケアを必要とする児童・生徒が安心して、 護師配置が可能となった。高度な医療的 刈谷豊田総合病院との連携・協力体制

> 加は、 れた。不可能が可能に、修学旅行への参 護師の助言を得て、綿密な計画が立てら 授業や校外学習に参加できるようになっ た。修学旅行の日程作成においても、看 豊かな学校生活の一ページとなっ

ら語りかける姿が、あちらこちらで見受 ちは、教師に付き添われた特別支援学校 呼ばれる芝生の中庭がある。休み時間 開校した刈谷市立小垣江東小学校があ けられている。 の児童・生徒を見ると、近寄り、何かし る。この二校の間には、ふれあい広場と に、この中庭で遊ぶ小垣江東小の児童た 同じ敷地内には、昭和六十二年四月に

でいる。 を植え、ホタルの鑑賞会を一緒に楽しん 遊び、子牛の世話をし、ペアとなって花 開校以来、両校の児童たちは、中庭で

知恵や

るような気がします」 手と手でハイタッチをすると、 べることができないけれども、 Aさんは、私たちのように上手くしゃ 心が通じ 目を見て

ものがある。 もたちにとって、 で、日々を過ごすことにより、ごく自然 れた。お互いの存在を感じ合う環境の中 に関わる姿が見られている。両校の子ど 小垣江東小のある女子児童が話してく 何ものにも代えがたい

いる。 は、共に生きる社会を現実のものとして 自身を認めていく。互いを尊重する姿 優しさが育まれ、他人を、そして、自分 人と人との関わりの中で、思いやりや

▼令和三年度

各部会·委員会刊行研究集録

養護教諭 保健体育 へき地教育 統計教育 道 生 活 科 愛知県へき地教育 愛知の統計教育〈40 令和三年度研究集録 体育研究集録 生活科研究 道徳教育研究集録第36 20

未来の創り手となる子どもの育成(3) 研究シリーズ第45集 ふるさとに夢や誇りをもって、

編 集 後記



うございました。 くださった皆様、 す。また、「教育みかわ」をご愛読 皆様には、心よりお礼申し上げま 重な原稿をお寄せいただきました 届けいたします。この一年間、 ここに令和三年度の最終号をお 本当にありがと

を心がけて取り組んでまいります。 る会報誌となるよう、 員のさらなる力量の向上につなが 皆様にとって読みやすく、 一層の充実

表紙の写真

「学習発表会(千手観音ダンス)」

西尾市立白浜小学校 鈴木理佐子 先生